

第3回那覇市地域包括支援センターと急性期病院 退院支援部門との連携研修会 ～身寄りがない方への支援の連携～

① 講話：『身寄りがない方への支援に関する研修参加者の事前質問への回答について』

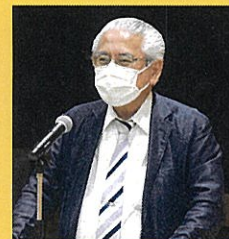
ゆいま～る法律事務所 弁護士 寺田 明弘 氏、
那覇市チャージがんじゅう課 包括支援グループ 新垣 優香 氏

② ミニレクチャー：『医療ソーシャルワーカー、DPCとは』

沖縄協同病院 医療ソーシャルワーカー 長 原野 氏

③ ミニレクチャー：『退院支援看護師とは』

那覇市立病院 入退院支援室 室長 仲眞 藤子 氏



【司会】
在宅医療担当理事
上間 一 氏

○ 日 時：令和7年9月8日（月） 午後7時00分～9時00分

○ 場 所：沖縄県医師会・3階ホール

○ 参加者：54名 { 急性期病院 退院支援部門・那覇市内：14名、那覇市外：8名、
那覇市地域包括支援センター：23名、居宅介護支援事業所：9名 }

【目的】①地域包括支援センターと急性期病院 退院支援部門（MSW、退院支援看護師、医師）の連携強化を図り、患者を中心に切れ目ない在宅移行ができる。

②身寄りがないことを理由に、入退院において不利益にならない体制を整える。

【対象】地域包括支援センター、急性期病院退院支援部門（MSW、退院支援看護師、医師）、介護支援専門員

サマリー 参加者は54名、アンケート回収率は94.4%。研修では、身寄りのない方を支援するにあたり多職種連携で関わることの強みを再確認する有意義な場となった。今回新たな試みとして、身寄りがない方が急性期病院へ入退院する際の支援などについて事前質問を受け付け、それを踏まえてシンポジスト（弁護士・行政）によるQ&A形式で行なった。内容は概ね高評価となり、事例や法的整理が分かりやすいとの意見が多数あった。グループワークでは「課題共有や連携の重要性」が実感された。一方で、身寄りのない方への支援に関するローカルのガイドラインやルールが不足していることが大きな課題として指摘された。今後も身寄りがない方が入退院の際、不利益や不安を感じないような仕組みづくりと、それに対する行政（生活保護課、障がい福祉課、チャージがんじゅう課）の主体的な関与（行政を交えたグループワークなど）、定期的な研修会の継続が望まれている。



シンポジスト：寺田 明弘 氏、新垣 優香 氏



レクチャー：長 原野 氏、仲眞 藤子 氏



第3回 那覇市地域包括支援センターと急性期病院 退院支援部門との連携研修会 ～身寄りがない方への支援の連携～

日 時：令和7年9月8日（月）19：00～21：00

場 所：沖縄県医師会・3階ホール 参加者：54名

那覇市地域包括支援センター： ＜23名＞	石嶺、大名、識名、安里、古波蔵、国場、新都心、安謝、泊、 かなぐすく、小禄、高良
居宅介護支援事業所： ＜9名＞	いしだ介護保険相談所、オリブ山居宅介護支援事業所、 介護老人保健施設 池田苑、居宅介護支援事業所ライラック、 ケアプランもくれん、那覇市安謝居宅介護支援事業所、 しなさき居宅介護支援事業所、在宅総合ケアセンター大道、 那覇市社会福祉協議会 居宅介護支援事業所
急性期病院 退院支援部門： ＜那覇市：14名＞	大浜第一病院、沖縄協同病院、沖縄赤十字病院、那覇市立病院、 * おもろまちメディカルセンター、* 那覇ゆい病院
＜那覇市外：8名＞	友愛医療センター、浦添総合病院

* 急性期病院以外の医療機関も参加あり

アンケート回答者：51名（回収率：94.4%）

【お詫び】

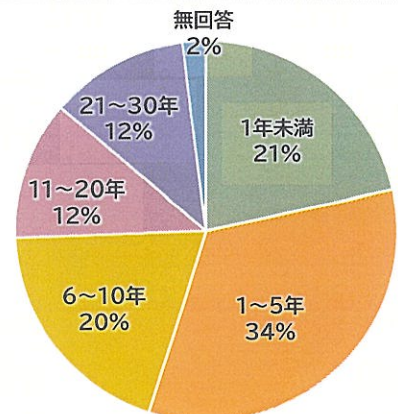
この度の研修会におきまして、会場の音響機材に不具合が生じ、音声聞き取りづらい状況となり、参加者の皆様には大変ご迷惑をおかけしましたこととお詫び申し上げます。

1. 職種

選択肢	人数	割合
MSW	9	18%
退院支援看護師	8	16%
保健師	1	2%
ケアマネジャー	10	20%
ケアプランナー	10	20%
社会福祉士	7	14%
その他	6	12%
合計	51	100%

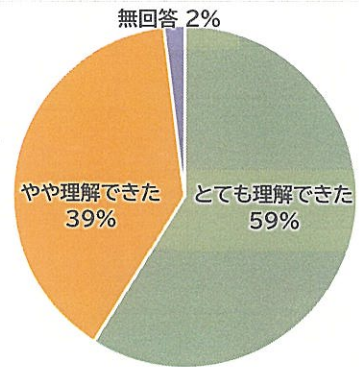
2. 現在の業務の経験年数

選択肢	人数	割合
1年未満	11	21%
1～5年	17	34%
6～10年	10	20%
11～20年	6	12%
21～30年	6	12%
無回答	1	2%
合計	51	100%



3. シンポジスト：寺田 明弘 氏のQ & Aは理解できましたか。

選択肢	人数	割合
とても理解できた	30	59%
やや理解できた	20	39%
あまり理解できなかった	0	0%
まったく理解できなかった	0	0%
無回答	1	2%
合計	51	100%



【ご意見・ご感想について】

◆ 地域包括支援センター

- ・ Q & Aを資料として回答して下さったので、後になっても見直せるのがありがたいです。
- ・ ケアマネに求められていることで、ケアマネが出来ない事をしっかり説明して頂き、ありがとうございます。
- ・ 個別ケース事例の対応が含まれていて分かりやすかった。
- ・ とても分かりやすく教えて頂きました。
- ・ もっと早く聞きたかった。
- ・ 事例があり、分かりやすく説明していただき良かった。
- ・ 本人を思って決断しても、後から家族に詰められないか心配。
- ・ 成年後見人をつけるとして、金銭面の問題があるが、行政の協力が得られないこともあります。那覇市に必要性をもっと訴えてもらいたいです。

◆ 急性期病院 退院支援部門

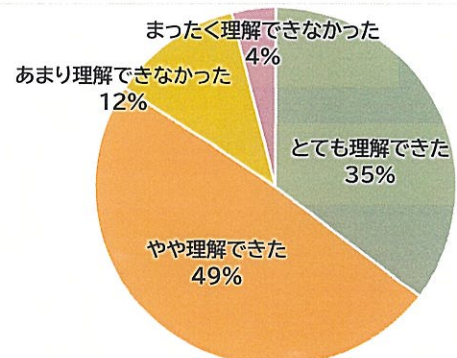
- ・ 病院との考え方に差がありすぎてびっくりした。
- ・ 法的にOKか迷っていたことが確認できて良かった。
- ・ 一番は本人を主体として、考えていくことが重要だと改めて感じた。
- ・ 身体拘束について「一時的」がなかなか判断できない。例) 経管栄養…家族は希望しているが本人は無意識に抜去するため、ミトンが必要。(経管栄養を続ける限り必要)
- ・ 先生の話し方が早口だった。

◆ その他

- ・ 後見人が出来ない部分も理解できたが、結果、誰が判断するのか、誰が保証人になるのか知れたかった。

4. シンポジスト：新垣 優香 氏のQ & Aは理解できましたか。

選択肢	人数	割合
とても理解できた	18	35%
やや理解できた	25	49%
あまり理解できなかった	6	12%
まったく理解できなかった	2	4%
合計	51	100%



【ご意見・ご感想について】

◆ 地域包括支援センター

- ・困った時のちゃーがんじゅう課！これからも報連相させていただきます。
- ・今後、ちゃーがんじゅう課の方にもたくさん相談に乗っていただきたいです。
- ・ちゃーがんじゅう課の意見が聞けて良かったが、“？”のところもあったため、今後も話を聞きたい。
- ・資料が分かりやすかった。
- ・一般的な対応方法について理解できた。
- ・独居高齢者が右肩上がりで増えている現状で今後の対策に期待したい。
- ・身寄りのない方で住居のない方の支援に、65歳以上という理由で包括支援センターが入るのはいかななものか。
- ・身寄りのない人の課題はあるのを知っているが“那覇市としての対策などがない”ことが一番の問題ではないか。
- ・那覇市のできていないことを再度説明されているだけで対応策などをしっかりもっと考えてもらいたい。

◆ 急性期病院 退院支援部門

- ・色々整っていないことが分かった。
- ・情報をまとめてくれてありがたいです。
- ・身寄りがない人のガイドラインの紹介もあったので参考にしようと思います。
- ・行政の立場からの回答を知ることができて、とても参考になりました。
- ・行政で出来る範囲には限りがあると知ることができた。行政からも積極的に会議に参加して頂けるようお願いしたいです。
- ・もう少し具体的なところを聞きたかった。
- ・身寄りのない人の支援のガイドラインを作成して欲しい。

◆ その他

- ・高齢化社会は今後さらに上昇するため、早めに対策をして欲しい。
- ・病院で治療はしていないが、法的な部分が認定できず退院出来ない。これからの地域包括ケアシステムが成り立たない。

5. グループワークはいかがでしたか。

◆ 地域包括支援センター

- ・ざっくばらんに話せました。それぞれの立場で悩みや課題がある事を実感しました。
- ・病院側（MSW）の意見を聞くことができて良かったです。
- ・多職種で活発な意見交換ができて勉強になり良かった。
- ・各専門職の立場で困りごとを共有でき、たくさんの課題も明らかにできたのが良かった。
- ・色々な立場から苦悩や対応方法などを知ることができて良かった。
- ・各機関ごとそれぞれに悩みがあり、工夫がある事を聞けて良かった。
- ・包括・病院・訪看と色々な立場の職種の方からのご意見が勉強になりました。
- ・とても充実していました。
- ・メンバーが良くてとても楽しかった。
- ・顔の見える関係で病院側と話しが出来たのはとても良かったです。お互いの出来る事を一緒に考えられればと思います。

- ・病院と在宅それぞれの立場で困っていること、ボランティアで支援するしかない。
- ・医療機関と地域での強みなど、役割を理解できたうえでの連携が重要だと感じた。
- ・包括の方の支援の大変さに驚きました。
- ・病院側、地域側の意見が聞けて良かった。入院して医療機関に任せるのではなく、受け入れ準備を進める必要があると分かった。
- ・病院とケアマネの困りごとが同じだと分かり、身寄りのない方には早めに後見人を付けることが大切である。
- ・制度のしがらみ、次（後見人調整）に行くまでに時間がかかる。その間の対応の難しさに共感しました。
- ・DPCという制度を知れたことで、入院後の対応を予め考え、準備しておくことが大切だと実感しました。
- ・那覇市にもカンファレンスに参加する等、連携してもらいたい。
- ・時間が少し短かったように感じる。①②に関して要点をまとめてお伝えするのが難しかった。
- ・医療側の意見は聞いたが、包括・ケアマネの意見が聞けなかった。もう少し時間がほしい。
- ・議論を深めるための時間が欲しかった。
- ・私たちのグループでは、困っていることの話が多く出ました。今後、身寄りのない方が増えていくと包括やケアマネが「やむなく」やっていることは、やり続けられるのだろうか疑問です。親族でない支援者を増やす、見つけることは大切だと思いますが、連帯保証人・身元保証人までお願いできるのだろうか疑問でした。今はデイサービスすら緊急連絡先がないと断られる現状で、身寄りがない方の支援のやりづらさを感じています。

◆ 急性期病院 退院支援部門

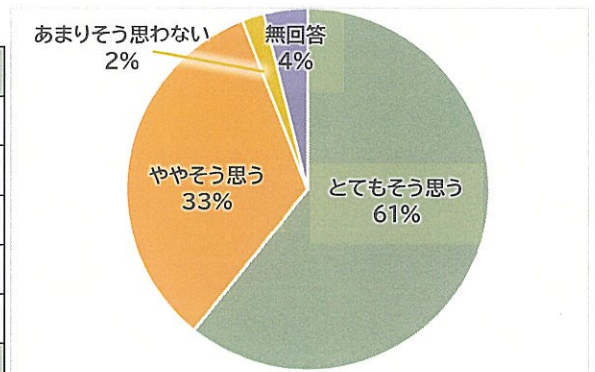
- ・他院、多職種の意見（アイデア）が聞けて良かった、ためになった。
- ・それぞれの機関のやっていることを聞くことができて良かったです。
- ・病院内では解決できないようなことも、関係機関と一緒に行うことでチームとして考えることができるため、様々な意見が聞けて、とてもいい機会になりました。
- ・皆で困っていること・悩みを共有できた。
- ・どこの病院も悩みは同じだなと思いました。
- ・それぞれの専門分野について話を聞くことができ、どちらも難渋していることが分かりました。連携することの重要性を理解しました。
- ・それぞれの立場で困りごとがあるが共通していることが多いと感じた。
- ・意見決定支援、身寄りがない方の調整はかなり苦労している。
- ・アセスメントが大事（経済状態、年金、介護者）。
- ・普段知る機会のない院外の情報や困難なケースを知り、MSWの立場からもつなぐ支援を意識するだけでなく、本人の意思確認・共有が大切だと改めて感じました。
- ・医療機関の方、包括の方、居宅の方などそれぞれの立場から日頃苦労されていること、取り組まれていること等を伺って勉強になりました。
- ・一つの機関でなかなか解決できないと考えさせられたので、これから協力してやっていきたいと思いました。
- ・意見交換の場としては良かったと思います。ただ、ファシリテーターの質によってグループワークの効果が異なると思うので、予めファシリテーターや発表等、役割を設定してほしい。
- ・時間の指示がなかったなので、一つ目のテーマの話し途中で終わってしまった。スタートの時点で何時何分までなど伝えてほしい。
- ・もう少しグループワークの時間が欲しかったです。（何が出来なのかを考える時間が足りなかった）

◆ その他

- ・他職種の考えや、実際に困っていること・工夫していることを聞けて良かった。
- ・それぞれの立場の役割、仕事内容、課題が分かった。
- ・病院、MSWの大変さを知ることができ、MSWからの視点が共有できたことが今後に活かせます。

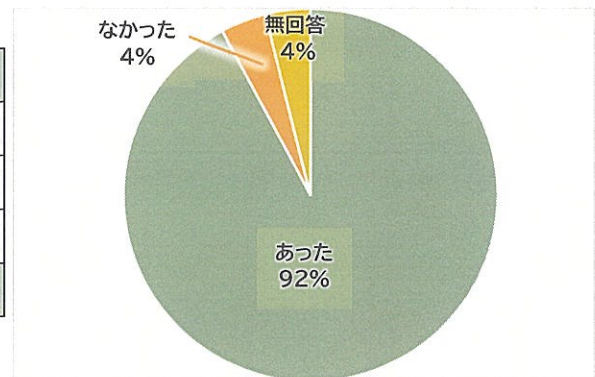
6. 本日の研修内容は、業務に役立つと思いませんか。

選択肢	人数	割合
とても思う	31	61%
やや思う	17	33%
あまりそう思わない	1	2%
まったくそう思わない	0	0%
無回答	2	4%
合計	51	100%



7. 本日の研修を受けて、明日からの業務で取り入れたいことはありましたか。

選択肢	人数	割合
あった	47	92%
なかった	2	4%
無回答	2	4%
合計	51	100%



【ご意見・ご感想について】

◆ 地域包括支援センター

- ・さらなる連携が必要（クリニックにとって活用すべき社会資源に結び付けるために）。
- ・アセスメントの密度でその人の支援の幅が広がることを学びました。
- ・アセスメントの重要性（経済面もしっかり聞くこと等）を感じました。
- ・チャージンじゅう課に積極的に相談する。
- ・身寄りのない方ということで受け入れを断らない。
- ・連携の方法など。
- ・後見制度の活用。
- ・身寄りのない人の支援者探し。
- ・現在のケースに活かします。
- ・急性期病院がなぜ退院を急ぐのか理解できた。
- ・DPCのことをあまり知らなかった。
- ・チームケアで対応し組織として判断する。本人のために良くても家族の苦情に繋がることを意識する。
- ・後見人の申請のサポート（医療機関受診）
- ・本人を中心に利益を考える。

- ・動画の活用。
- ・本人に立ち返るといふ基本姿勢が大事だと学びました。
- ・生活保護課に権利擁護事業をアタック！
- ・ラポール形成を大事にする。
- ・医療機関側の支援を理解し、連携を取っていきたい。
- ・一人での対応が難しい時は、関係機関への支援をお願いし、チームで支援できれば良いと思いました。
- ・身寄りのない方への備えについて考えていきたいと思いました。
- ・寺田先生や新垣さんからあった情報は事業所で共有したいです。
- ・病院スタッフもとても苦労しているので、チームで話し合いをもって役割分担したいと思う。

◆ 急性期病院 退院支援部門

- ・支援者同士の共感。
- ・身寄りなしの早期介入。
- ・紹介された窓口の情報をとります。
- ・これから身寄りのない方は増えていくと思われるので、マニュアル作成をしても良いと思う。
- ・行政（保護課やチャージんじゅう課）の方もカンファレンスに参加して頂く。
- ・身体拘束について同意書は不要（3原則に当てはまるなら）。
- ・包括・施設・病院それぞれが個人の尊厳を守りながら役割を発揮できるようにします。
- ・根拠となるガイドラインを確認する。
- ・本人らしく生きていくために支援する。
- ・外出時は（本人の自宅へ行く際）記録を残すこと。
- ・提案する姿勢で支援すること。
- ・多職種チームで取り組む（今まで以上に）。
- ・アセスメントをする。
- ・関係者と知恵を出し合ってやっていく。
- ・まず一人で抱え込まないで、皆で相談する。
- ・身寄りがない方の支援、入院時から早期介入し地域へつないでいきたいと感じた。
- ・行政との連携をより強化していきたいです。
- ・お互いの役割を知ってお互いに助け合うことを意識したい。
- ・本人の気持ちを聞き取って信頼関係を築くことで、提案できることもあると聞き、面談の質を深めアセスメントに力を入れたいと思った。

8. 本日の気づき、今後取り上げて欲しいテーマやさらに深めたい内容がありましたら、お聞かせ下さい。

◆ 地域包括支援センター

- ・疎遠の家族より、一緒に長くいる方が優先となったほうが、より良い支援に繋がると思う。
- ・良かれと思って行う自己の行動が、本当に良いことか考えて行動する。
- ・寺田先生のお話はいつも興味深く拝聴しております。
- ・“病院も身元が分からない”段階からスタートすることも多いという探偵みtainなことをしていると知り大変さを感じた。
- ・それぞれの立場や役割を相互に理解し、情報共有や連携を図ることの大切さを再認識した。

- ・行政としての関わりが乏しい印象。関わっていくケアマネが関係機関を守ってほしいというコメントもあり切実に感じている。
- ・生活保護課はケアマネに任せるだけで協力しようとするような体制はないように感じる。
- ・本日グループワークで出た「あると助かるサポート」の内容をぜひ現実的にして欲しいです。
- ・身寄りのない人を担当する部署を作ってほしい。
- ・各関係機関が集まり相談し合う時間はあまりないと思われます。問題が出た時に解決をどうしたらいいのか求められるため、集まって相談できるようにする前に、すぐに相談できる担当部署を作るべきではないか。
- ・那覇市役所内の横の連携もうまくできていないので、しっかり連携し相談事にスムーズに対応してもらえるようにしてもらいたい。
- ・入退院支援について、社協の取り組みや事例があれば知りたい。
- ・急性期病院では身寄りがないことで受診（入院）を断られることはないので、地域包括ケア病棟などからも実情を聞いてみたいです。
- ・後見人の選定に時間がかかる？担い手がない？人材育成などできることがあれば、研修など開いてほしいです。
- ・転居する際の保証人の問題。
- ・孤立死・孤独死のケースで医療・介護が生前どのくらい連携ができていたか共有したい。
- ・身寄りがない方の課題はたくさんあると思うので、また同じテーマがあればいい。
- ・医療ソーシャルワーカー、退院支援看護師について、もう少し深めた内容をお願いします。
- ・住まいの問題をテーマにしても面白いかも（居住支援法人のサポート／シェアハウスについて）

◆ 急性期病院 退院支援部門

- ・支払う見込みが無いと退院先がないので困っている。
- ・定期的にこのような研修会を行ってほしい。
- ・身寄りがない方の支援サポートを行政が中心に取り組めないか。
- ・身寄りがない方の支援チームを作るためにどうするか。那覇市で今できること、つくるために必要なことを考えるような研修を開いてほしい。
- ・成年後見制度の申請の流れ、概要についての学習会があると嬉しい。
- ・医療機関における社会福祉士と退院支援看護師の専門性について知りたい。
- ・独居でアルコール依存症の方の療養先や透析の患者さんの療養先に難渋しているため、どう進めていけるか。
- ・長さんの講義が非常に良かったです。MSWは専門性が分かりづらく医療機関において“調整係”と認識されることが多々あります。ただでさえ人口が少ないMSWがモチベーションを維持して働き続けられるように“社会福祉士の専門性・MSWの専門性”を講義できる機会があればと考えています。
- ・生活保護の申請について教えてほしい。

◆ その他

- ・行政でもまだ整備されていない？追いついていない？中でも進めないといけないのが今の現場です。だから悩みのある中で皆「自分がしないと」という思いで働いていると思います。これから独居の方・身寄りのない方が増えていく中で不安しかありません。
- ・行政システムについて。
- ・身寄りがない方の対応について。

令和7年度 在宅医療・介護連携支援推進事業
那覇市地域包括支援センターと急性期病院 退院支援部門との連携研修会

とき：令和7年9月8日（月）

19時00分～21時00分

場所：沖縄県医師会・3階ホール

A グループ

テーマ：「身寄りがない」ことを理由に本人が受ける不利益をなくするためには

- （例） ①それぞれの立場で日頃からやっていること・できること
②あると助かるサポート（法的、倫理的、福祉的など）
-

①

- ・独居の方が多い
- ・ホームレスの方、生保、退院後どこへつなげばよいか
- ・ケアマネが出来る事、出来ない事は自身が理解して、チームとして一人で抱え込まないようにしている。
- ・少しずつ信頼関係をつくるようにしている → 高齢者実態把握訪問（地域包括）

②

- ・ケアマネ・居宅がどういう所か、このようなケースに特化しているのか情報があればほしい
- ・ケアマネを守る体制が欲しい。ケアマネのサポート体制（行政）
- ・高齢者終身サポート・安心して任せられるものがあれば良いか

令和7年度 在宅医療・介護連携支援推進事業
那覇市地域包括支援センターと急性期病院 退院支援部門との連携研修会

とき：令和7年9月8日（月）

19時00分～21時00分

場所：沖縄県医師会・3階ホール

B グループ

テーマ：「身寄りがいない」ことを理由に本人が受ける不利益をなくするためには

- （例） ①それぞれの立場で日頃からやっていること・できること
②あると助かるサポート（法的、倫理的、福祉的など）
-

①

（医療機関）

- ・MSWと看護師がペア
- ・入院前に把握されていない方の対応に困ることがある
- ・入院を機に支援が必要になった方の退院調整（相談員が大変そう）

（地域）

- ・退院後の治療方針（透析拒否）「本人に任せる」→医師が本人の理解度も確認してほしい

>>チームで対応（MSW、看護師）行政も呼んでカンファレンス

②

- ・病院・在宅関係者集まって話し合いをして欲しい
 - ・保護課も病院もケアマネ任せ
 - ・行政のシステムを整備してほしい
- （宜野湾市、浦添市、沖縄市は医療機関のカンファレンスに参加している）
- ・後見申立をスムーズにできるようにしてほしい

令和7年度 在宅医療・介護連携支援推進事業
那覇市地域包括支援センターと急性期病院 退院支援部門との連携研修会

とき：令和7年9月8日（月）

19時00分～21時00分

場所：沖縄県医師会・3階ホール

Cグループ

テーマ：「身寄りがない」ことを理由に本人が受ける不利益をなくするためには

- （例） ①それぞれの立場で日頃からやっていること・できること
②あると助かるサポート（法的、倫理的、福祉的など）

①

- ・身寄りがない方のマニュアルはない。倫理委員会にかけて話し合いをする
- ・関わっている施設の方等から本人の意思確認をする
- ・身寄りがないからといって受けないとはしない
- ・本人の情報収集、生活で何が大事かの確認
- ・退院時困る。生保につながっていない人は誰がやるのか・・・
- ・介護保険、非該当か要支援、アパートの階段上がれない等ある→包括ケア病棟へ転院
- ・自宅住所の包括へ相談する。転居まで時間かかる。シェアハウス（良心的なところ）へ転居する際、業者の相見積とったが、詰め込み作業を医療機関スタッフがやった。保護課は動いてくれない。
- ・シェアハウスに通院援助もしてくれる良心的なところがあった。在宅酸素の方も受け入れてくれた。自立でも医療的治療が必要な方もいる（訪問診療に切り替えた？介護保険申請）
- ・身元保証受けてなくてもシェアハウスに入れた
- ・生保につながっていない人が大変。シェアハウスの人が生保申請してくれる
- ・早めに後見人を付ける方が良いのでは
- ・包括の支援拒否、次の施設が決まらない、認知症疑い（グレー）

②

- ・市か県の管轄する身元保証制度（施設や団体）があれば安心

令和7年度 在宅医療・介護連携支援推進事業
那覇市地域包括支援センターと急性期病院 退院支援部門との連携研修会

とき：令和7年9月8日（月）

19時00分～21時00分

場所：沖縄県医師会・3階ホール

D グループ

テーマ：「身寄りがない」ことを理由に本人が受ける不利益をなくすためには

- （例） ①それぞれの立場で日頃からやっていること・できること
②あると助かるサポート（法的、倫理的、福祉的など）

①

- ・病院にいと、ACP（最期の過ごし方）を決めがち。もう少し生活感や人生観、価値観を少し変えてACPの考え方を会話している。
- ・寺田先生＞判断能力があり、事前の準備をどういう風にやったらいいのか？アセスメントを行うことを意識してやっている。自分なりに「この人が・・・」どうするのか？金銭面を確認している。
- ・身寄りがない人は、一人で支援しない＞＞偏った支援になる。本人の立場を考える。皆で集まる。チームでやっていく。共同カンファレス（情報を集める）。本人の意思確認

②

- ・行政が身元保証をやるべき（社協＞＞家探し）
- ・お金ない人、グレーな人も待ち状態

令和7年度 在宅医療・介護連携支援推進事業
那覇市地域包括支援センターと急性期病院 退院支援部門との連携研修会

とき：令和7年9月8日（月）

19時00分～21時00分

場所：沖縄県医師会・3階ホール

E グループ

テーマ：「身寄りがない」ことを理由に本人が受ける不利益をなくするためには

- （例） ①それぞれの立場で日頃からやっていること・できること
②あると助かるサポート（法的、倫理的、福祉的など）
-

①

- ・ 認知症に関わる
- ・ 精神疾患の方の後見人を促すが、いらないと断られる。それをそのままみている。このようなケースのサポートがあればよいか。

（地域）

- ・ 気を付けていること、グレーな部分が多い。独居の方が入居する際、受け入れ体制の連携。通院支援ができないか
- ・ 身寄りなしで精神疾患のある方のSOSを読み取る。金銭管理や傾聴ボランティアがあるといい
- ・ 身寄りなしでデイサービスを利用している。後見人制度でも費用が発生するため難しい、後見人制度を利用できる

（医療機関）

- ・ 身寄りがない方が入院した場合、決定事項が難しい。受け入れてくれる施設がない。申請に時間がかかる。家の片づけなど病院から出るために時間を要する。
- ・ ケアマネがいると繋がっていると安心。病院に入院する前からの繋がりがあればいいのか

とき：令和7年9月8日（月）

19時00分～21時00分

場所：沖縄県医師会・3階ホール

F グループ

テーマ：「身寄りがない」ことを理由に本人が受ける不利益をなくすためには

- （例） ①それぞれの立場で日頃からやっていること・できること
②あると助かるサポート（法的、倫理的、福祉的など）

- ・お金が関わるともめるので予防する
- ・包括は、お金は触らない>>一緒に行く
- ・キーボックスを利用し対応。写真・動画は必須
- ・身寄りはあるが、高齢のため環境整備は難しい。自宅で倒れた状態のまま発見される可能性がある。踏み込んだ支援をしないと退院が難しい
- ・救急時、身寄りなしどころか“身元が分からない”。65歳以上なら包括へ問い合わせる、生活困窮してそうなら保護課に問い合わせる等、担当していそうな窓口に問い合わせることから始まる。時には探偵のように、救急搬送された場所付近で聞き取りをしたり、自宅近辺の公民館に出向いたりしたこともある。生活困窮しているのであれば保護課へ繋いだり、銀行に行く必要があったり・・・しかしDPCで入院期間は決められている。関係機関は“医療機関にいる”ということで安心するのか、あまり介入してくれない。
- ・身寄りのない方の支援チームを早期に作ってほしい。“ゴミ出し問題”。市民（本人）がいないとゴミの持ち込みができない。何か支援者に代理チケットみたいなものがあれば、ゴミ出しがスムーズになる。
- ・アパート探しも保証人がいないことでなかなか見つからない。行政が介入して欲しい。

令和7年度 在宅医療・介護連携支援推進事業
那覇市地域包括支援センターと急性期病院 退院支援部門との連携研修会

とき：令和7年9月8日（月）

19時00分～21時00分

場所：沖縄県医師会・3階ホール

Gグループ

テーマ：「身寄りがない」ことを理由に本人が受ける不利益をなくすためには

- （例） ①それぞれの立場で日頃からやっていること・できること
②あると助かるサポート（法的、倫理的、福祉的など）

- ・ 本人が話せば“意向があれば”各機関と闘う
- ・ 転院先を選定する度に、すぐ包括へ「誰も関わっていない方です」とつなぐ
- ・ 酒飲み友人などでも支援者として巻き込む、本人に細かく聞き取る、つながっている人を探し出す。退院後の支援者として
- ・ 訪問看護や施設などの関わるキーパーソンが多いので、退院カンファレンスで聞き取り、関係者の意見を取り入れる
- ・ 支援者を常にアンテナで張り、各種役所機関とつながるようにしている
- ・ キーパーソンだった方におりられてしまい、他親族に頼んだが医療機関の相談員がご家族を探し出し、精算等も支援してくれて、施設まで入所させた。（入院拒否されていた方）
- ・ 貧困ビジネスの方>>今後一切関わらないスタンスの方もいる
- ・ 急性期病院の残日数（治療の重度で決まる）
- ・ 支援を好まない人への支援>>包括、身寄りや支援者、新聞の方や家に何度も足を運ぶ
- ・ 組織としての方針が外出の可否
- ・ 気になる方の支援として
- ・ 家族なども目を向けてくれて

とき：令和7年9月8日（月）

19時00分～21時00分

場所：沖縄県医師会・3階ホール

Hグループ

テーマ：「身寄りがない」ことを理由に本人が受ける不利益をなくするためには

- （例） ①それぞれの立場で日頃からやっていること・できること
②あると助かるサポート（法的、倫理的、福祉的など）

・てんかん発作（6日・DPC2期）で入院。退院後再入院になった。家で薬飲めない。
要介護1、給付制限あり、利用未

・母と2人暮らしの息子。後見相当。急性期病院からの連絡。親戚から親族申し立て。包括から後見人のメリットについて説明したが拒否。

・弁護士から説明をもらって承諾を得た。申し立てのめどは立った。

・入院が180日を過ぎると診療報酬が下がる。後見人が選定されたら施設入所、生保申込する

>>DPCはあるが長期入院の人がいる。看護体制の変更もあって難しい。同じようなケースがあった際に入院させなくなるのでは？

・要支援1、ヘルパー利用。兄弟とも疎遠。8月上旬に救急搬送

・8月中旬、銃刀法違反で警察保護された。釈放されたがアパートの階段で寝泊まりしていたため、精神科病院に任意入院。

・生活保護と介護保険申請は包括。親戚に頭を下げて依頼した。考えさせられた（キーパーソンを探してお願いするしかなかった）